

まえがき

千葉県子どもと親のサポートセンター開設9年目を迎えた平成22年度は、暑さ・寒さ、そして洪水や大雪と地球規模での大きな変化がありました。

うれしいニュースでは、平成15年5月9日に打ち上げられた惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワに到着後、60億kmの旅を終え、平成22年6月13日大気圏に突入後カプセルが回収されました。

そのような中、教育界も大きく変わりつつあります。

平成23年度、小学校から順次、中学校、高等学校と新教育課程が完全実施されます。

社会の変化と知識の日進月歩の目まぐるしい中、教育界も新しい教育課題への対応に向け、より高度な教育を目指し、努力しなければならないことは言うまでもありません。

「調査研究事業」は、大学等関係機関との連携を図りながら、各種情報の収集・蓄積・提供に努めるとともに、各種支援プログラム等を開発し啓発や提言を行うものです。生徒指導や教育相談に関し、業務を通じた研究を行うとともに、学校のニーズに即した研究を推進してまいりました。

本研究は、平成21・22年度の2年間の継続研究で、「教育相談機能を生かした教育実践事例集」の作成です。11人の研究協力員の先生方のご協力により、教育実践事例を11例、校種別・内容別に掲載してあります。生徒指導や学級経営に向けての新しい挑戦や、各種生徒指導上の課題解決の一助となれば幸いと存じます。また、必要に応じてホームページから取り出すことができるようになっています。

実践事例ですので、そのまま実際の場にあてはめて使えるとは限りませんが、本文の横や下段にコメントや用語解説を入れ、その文末にはコラムも設け、より分かり易く、より使い易くなるよう工夫してありますので、参考資料として御活用ください。文章的には、教職5年目程度の先生方を想定しております。

なお、平成8年から平成11年にわたって作成した『教育相談ハンドブック』（小学校編・中学校編・高等学校編・面接編）と、併せてご使用いただくと、より効果的であると考えます。本紀要が、教職員や各種関係機関の皆様のお役にたてばと願っております。

最後になりましたが、千葉県子どもと親のサポートセンター参与であり、千葉大学教授の保坂亨先生には、作成に当たり細部に渡りご指導を賜り、厚く感謝申し上げます。

平成23年3月

千葉県子どもと親のサポートセンター 所長 菅野清次